

# 平成31年度予算編成方針

『「選ばれるまち」・「住み続けたいまち」 亀岡の実現』

— 市民力で未来を拓く —

## 1 地方行財政を取り巻く諸情勢

内閣府が公表した9月の「月例経済報告」によると、「景気は、緩やかに回復している。」とし、先行きについては、「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。また、相次いでいる自然災害の経済に与える影響に十分留意する必要がある。」と指摘している。

国においては、本年6月に「経済財政運営と改革の基本方針2018」が閣議決定され、「経済再生なくして財政健全化なし」との基本方針を堅持し、財政健全化を、着実かつ景気を腰折れさせることがないようなペースと機動性をもって行い、2025年度の国・地方を合わせた基礎的財政収支黒字化を目指すことなどが示された。

また、少子高齢化の進行、人手不足の高まりの中で、潜在成長率を高めていくためにサプライサイド（供給側）の強化が必要であり、その改革として、一人ひとりの人材の質を高める「人づくり革命」と成長戦略の核となる「生産性革命」に取り組むとともに、働き方改革を推進することなどが盛り込まれた。

そうした状況の中、地方財政については、総務省の概算要求において、地方の安定的な財政運営に必要となる地方の一般財源総額について、平成30年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保し、地方交付税については、本来の役割が適切に発揮されるよう総額を確保することとされたところである。

しかしながら、地方交付税の要求額は、平成30年度当初予算額から0.5%減少している状況であり、地方財政にどのような影響が生じるのか予断を許さないところである。

今後とも国の予算編成の動向や経済情勢を十分に注視し、国・府等の関係機関との連携を密にして情報収集に努め、迅速かつ的確に対応していかなければならない。

## 2 亀岡市の財政状況

亀岡市においては、平成14年度から独自に策定した「財政健全化計画」に基づき、平成22年度からは「行財政改革プラン2010-2014」、さらに平成27年度からは新たに「行財政改革大綱2015-2019」を策定し、財政健全化に取り組んでいるところである。

平成29年度の決算は、健全な財政運営の推進など大綱に掲げる項目に取り組みながら、未来を見据え、次代を拓く京都スタジアム（仮称）関連経費をはじめ、積極的な投資的事業を実施し、市債残高は、275億円（臨時財政対策債を除く）となり、前年度から約7億円増加した。

また、地方財政健全化法における健全化判断比率の指標である将来負担比率についても同様に、対前年度比6.2ポイント増の143.6%（早期健全化基準350.0%）となったところではあるが、早期健全化基準を下回っており、地方財政健全化法に基づく健全財政を維持しているところである。

しかしながら、財政の硬直化を示す経常収支比率については、平成29年度は、96.7%と前年度に比べ1.2ポイント増加し、主要3基金の残高は、平成29年度末から約4億円減少し、基金に依存した財政運営が続いている状況である。

歳入においては、平成25年度以来となる市税収入が100億円を超え、明るい兆しが見えている一方で、平成30年10月に作成の「財政状況及び今後の見通し」において、平成30年度の普通交付税は、前年度から約2億7千万円減少する見込みであるなど、一般財源の増収を見込むことができない状況となっている。

そうした中で、歳出の義務的経費においては、社会保障等による扶助費に加え、教育施設などの大型事業を推進してきたことなど、今日までの普通建設事業等の市債発行に伴う公債費についても高止まりの傾向にあり、今後の収支を予測すると、多額の財源不足が生じる見込みとなっており、厳しい財政状況に変わりはないところである。

## 3 基本的な考え方

平成31年度においても、まず、引き続き、第4次総合計画～夢ビジョン～後期基本計画を着実に前進させることとし、「選ばれるまち」・「住み続けたいまち」の実現を念頭に置くこととする。そして、夢が現実となる日が近づいてきた京都スタジアム（仮称）をランドマークとし、かめおか新時代の訪れにふさわしい、にぎわいのまちづくりに向けた事業推進を更に図るとともに、きめ細かな、市民サービスを継続して提供する市政を推進するものとする。

しかしながら、前述のとおり本市の財政状況は、サマーレビューの取組など事務事業の見直しに取り組んでいるものの、一般財源の増加が見込めない中、厳しい状況は変わらないところである。近年の多発し激甚化する自然災害にも早急に対応できる財政基盤を継続し、将来にわたって持続可能な市政運営を図っていく必要がある。

このことから、今日までのスクラップ・アンド・ビルドを基本とした事業の創造に加え、費用対効果など客観的データに基づき、行政効果の高い事業予算を確保する一方で効果の低い事業予算を抑制する、いわゆる予算のメリハリ付けを図るとともに、普通建設事業に係る市債の発行額を元金償還額以内に抑えるように取り組むものとする。

予算編成については、社会経済情勢は常に変化し、市民ニーズも多様化していることを的確に捉える中で、各々の所属を越え全庁横断的に情報や課題を共有し、既存概念を捨て柔軟な発想による、市民に真に重要かつ優先度の高い事業の選定に努めることとし、次の3つの柱を基本として編成する。

#### (1) 第4次総合計画～夢ビジョン～の推進

第4次総合計画～夢ビジョン～基本構想で示された目指す都市像「水・緑・文化が織りなす 笑顔と共生のまち かめおか」～セーフコミュニティの推進とにぎわいのまちづくり～の実現を目指し、「定住促進・少子化対策」、「安全・安心の推進」、「にぎわいの創出」の3つを重点テーマとして掲げた後期基本計画に基づき、予算を編成する。

予算要求においては、夢ビジョンにおける「まちづくりの基本理念」を尊重し、生涯学習の成果を活かし、市民と行政が互いに力を合わせ、豊かで愛着心の持てるまちづくりを進め、誰もが生涯を通じて健やかに安全・安心に暮らせる社会を築くとともに、先人の知恵や教えを守り継承し、地域の絆を強め活気と魅力ある亀岡の創造を目指すものとする。なお、事務事業の執行において課題となっている事項については、その解決策を十分に検討し改革策を見出すこと。

#### (2) 健全な行財政運営の推進

前述のとおり、本市の財政状況は大変厳しい状況にある中で、高度化・多様化する市民ニーズを的確に、また継続的に対応していくためには、量的な行政サービスの提供から質的な行政サービスの推進を図っていくことが重要である。

そのため、行政運営の効率化や協働化、財政運営の健全化などを更に推進する必要があり、現行の行財政改革の目標である『持続可能な行財政運営の推進』のため、「健全で効率的な行財政運営の推進」、「市民参加による行政運営の推進」、「組織・マネジメント改革の推進」の3つの柱を着実に実行し、歳入歳出

の両面で幅広い視点を持って所管の事務事業を更に見直し、目的達成のための最少の経費を積算することで、健全で持続可能な行財政運営を確立していくこと。

### (3) 一般財源要求上限額（キャップ制）の設定

歳入の根幹を成す市税や地方交付税などの一般財源の増加が見込まれる状況でない中で、財政の健全化を図るには、本市の身の丈に合った歳出規模とする必要がある。そのため、限られた財源を最大限有効に活用し、財政調整基金に依存することを極力控え、長期的な視野に立ち、予期せぬ収入減少や不時の支出増加等に備えなければならない。

そのために、各部局室の一般財源要求上限額を設定し、その配分の範囲内での予算編成を行うこととする。各部局室長がマネジメントをより発揮して、各部局室における予算編成の方針を定め、その方針の下に職員が結集し、チャレンジする意識を持って取り組むこと。各部局室長の強いリーダーシップにより、新たな事業立案にあたっては、スクラップ・アンド・ビルドの考え方をもとに既成概念にとらわれずに取り組むこと。

## 4 重点施策の推進

平成31年度は、以上の基本的な考え方に基づき事業を推進するため、総合計画の施策大綱に沿って次の項目を重点施策として推進する。

### 互いを認め合う、ふれあいのまちづくり

- ・ 市民憲章の精神を尊重する、平和と人権の根づくまちづくり
- ・ 「イクボス宣言」の実践、「女性100人会議」の開催などによる男女共同参画社会の推進
- ・ 市民力による支えあいまちづくりの推進

### 安全で安心して暮らせるまちづくり

- ・ 大規模災害などに備えた情報伝達機能の強化など防災体制の強化
- ・ 「自助・共助・公助」による防災・減災対策の充実
- ・ セーフコミュニティの推進
- ・ 交通事故ゼロをめざす取組など安全で安心して暮らすことのできるまちづくり

### 健康で元気あふれるまちづくり

- ・ 予防検診・保健指導など、健康増進対策の推進
- ・ 妊娠から出産、子育てまで切れ目ない支援の推進

- ・保育環境・保育サービスの更なる充実
- ・「みんな de 亀コン」など、婚活支援事業の推進
- ・高齢者が安心して暮らせるまちづくりの推進
- ・住みなれた地域で安心して暮らせる障害福祉サービスの充実

### 豊かな心と文化を育むまちづくり

- ・空調機器をはじめとする学校施設整備の推進
- ・中学校選択制デリバリー弁当の全校実施など、心と体を育む学校生活環境の充実
- ・小中一貫・連携教育、ふるさと学習など特色ある教育の推進
- ・霧の芸術祭などによる市民文化の振興と、行事食の紹介などによるふるさとの文化の伝承
- ・ホストタウンの取組やクニッテルフェルト市との姉妹都市盟約55周年事業などの国際交流の推進
- ・ふるさとゆかりの先人顕彰の推進と民俗芸能等の保存・継承
- ・「京都スタジアム（仮称）」をランドマークにした、地方創生で拓く魅力あるまちづくりの推進
- ・生涯学習の新たな展開に向けた取組と生涯スポーツ社会の推進

### 人と環境にやさしいまちづくり

- ・アユモドキ等の生息環境を守るグリーンインフラの創出
- ・消化ガス発電等再生可能エネルギーの更なる活用拡大
- ・ごみ減量・資源化に向けたゼロエミッション（ごみを出さない地域社会）の推進
- ・プラスチックゴミの削減など環境先進都市を目指した取組の推進
- ・エコ農業など環境にやさしい営農活動の促進
- ・土地区画整理事業の推進
- ・まるごとガーデンミュージアム構想による花と緑がいっぱいのまちづくり

### 活力あるにぎわいのまちづくり

- ・大河ドラマ館の設置などで加速する『時は今』麒麟のまちの創造
- ・日本一の京野菜の産地の更なる発展をめざした農業施策の推進
- ・国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」の促進
- ・有害鳥獣対策の推進
- ・物産店（かめまるマート）の利用促進などによる地産地消の推進と魅力ある商店街づくりの支援
- ・『麒麟のまち亀岡』『カメばカムほど亀岡』～亀岡観光の魅力づくりと魅力発信
- ・企業誘致の促進、ものづくり産業の育成支援
- ・雇用対策の促進と就労支援の充実

## 快適な生活を支えるまちづくり

- ・ 広域幹線道路・生活道路などの公共インフラの整備促進
- ・ JR千代川駅バリアフリーの促進
- ・ バス交通の利便性向上と地域間の格差是正
- ・ 桂川堤防・護岸高水敷を活用した保津川かわまちづくりの推進
- ・ 「離れ」にのうみの利用拡大を図るなど、移住・定住の促進
- ・ 運動公園体育館の空調整備など防災対策も考慮した公共施設の整備促進
- ・ 人生の終焉の場となる新たな火葬場の具現化

## 効率的で明るい都市経営

- ・ 財政最適化に向けた取組などによる行財政改革の推進
- ・ 情報公開による開かれた市政の推進
- ・ ふるさと納税による収入の更なる確保
- ・ 公有財産の有効な利活用
- ・ クレジットカードによる市税納付の開始などによる市民サービスの向上

2020年は、京都スタジアム（仮称）の完成、明智光秀公を主人公とした大河ドラマの放映開始、ホストタウンとなる東京オリンピック・パラリンピックの開催と、本市のポテンシャルを最大限に発揮できる好機が到来する。本市の飛躍に拍車をかける、まさに「時は今」である。

この2020年をターゲットイヤーとして位置付け、平成31年度は、かめおか新時代のプロローグとなる積極的かつ大胆な施策を展開し、チャンスを的確に捉え、市民の目線に立ち、市民力で未来を拓くための取組を推進する。

そのため、職員力を結集し、予算要求においては、職員一人ひとりの知恵や工夫を集わせ、改めて執行体制、執行方法等を検証のうえ、従来の予算計上方法等にとらわれず、「最少の経費で最大の効果」を発揮できるよう、「選ばれるまち」・「住み続けたいまち」の実現に向け、全力を傾注し果敢に取り組むものとする。

平成30年10月24日

亀岡市長 桂 川 孝 裕